



7月のゆるりん歩き

平成19年7月28日 (土)
10:00~12:00



天気も良く、非常に暑い日になりました。まずは簡単に挨拶のあと、早速公園を歩きます。かえでの丘周辺は、消毒されてないため、虫たちの楽園になっている事が予想されますので、そこを目指して歩きます。
さくらの丘の太陽光パネルのところで、「ナナフシモドキ」を発見しました。触角の大きさがナナフシとは違って短いため見分ける事ができます。少し歩いて遊具周辺ではセミの鳴き声からツクツクボウシやクマゼミがいるのが分かります。



がんばってみますが、セミはなかなか捕まりません。そこでトンボを捕まえてみました。どこにでもいるトンボで名前は「ウスバキトンボ」。薄い羽を持つ黄色いトンボです。よく「アキアカネ」と間違えそうですが、体長と目の大きさが大きいです。毎年、東南アジア方面の温かい地方から飛んできて、どんどん日本中に広まるそうです。40日前後で卵から成虫になるので、夏の間だけでも世代交代がありますが、越冬はできないので寒くなると死滅してしまいます。もし温暖化して冬が暖かくなると、越冬できてしまい、冬でも見られるようになってしまうかもしれません。



少し歩いてかえでの丘周辺では「モンキアゲハ」や「チョウトンボ」が見られました。チョウトンボはトンボですが、チョウのような羽を持ち飛び方も他と違うのでじっくりと観察しました。



道なりに公園の出口の方に歩いていると、先生が茂みに入っていきました。すると、「ヤブキリ」を見つけました。体も大きく、キリギリスの仲間です。参加者から「顔を洗うしぐさをしているけど何故ですか？」という質問がありました。昆虫は触覚が大切なものなので、綺麗にしている仕草が顔を洗うようにみえるようです。



最後のルートで古墳群の方から帰ります。するとセミが近くで鳴いていたので、参加者に取ってもらいました。クマゼミで体が大きく、羽が透明なのが特徴です。古墳群を抜けたところで、各自捕まえていた昆虫を観察してから逃がしてあげました。暑い日中でしたが、捕まえたり観察したりして1時間半もじっくりと歩いて昆虫を観察できました。

講師：小川 次郎
(愛媛大学大学院連合農学研究科特定研究員)

